

## NY邸

木造住宅の設計

本 村 佳 久

(2009年11月13日受理)

設計監修・監理：本村佳久

Housing in Kanagawa

Yoshihisa MOTOMURA









3



4



5



6



7





8



9



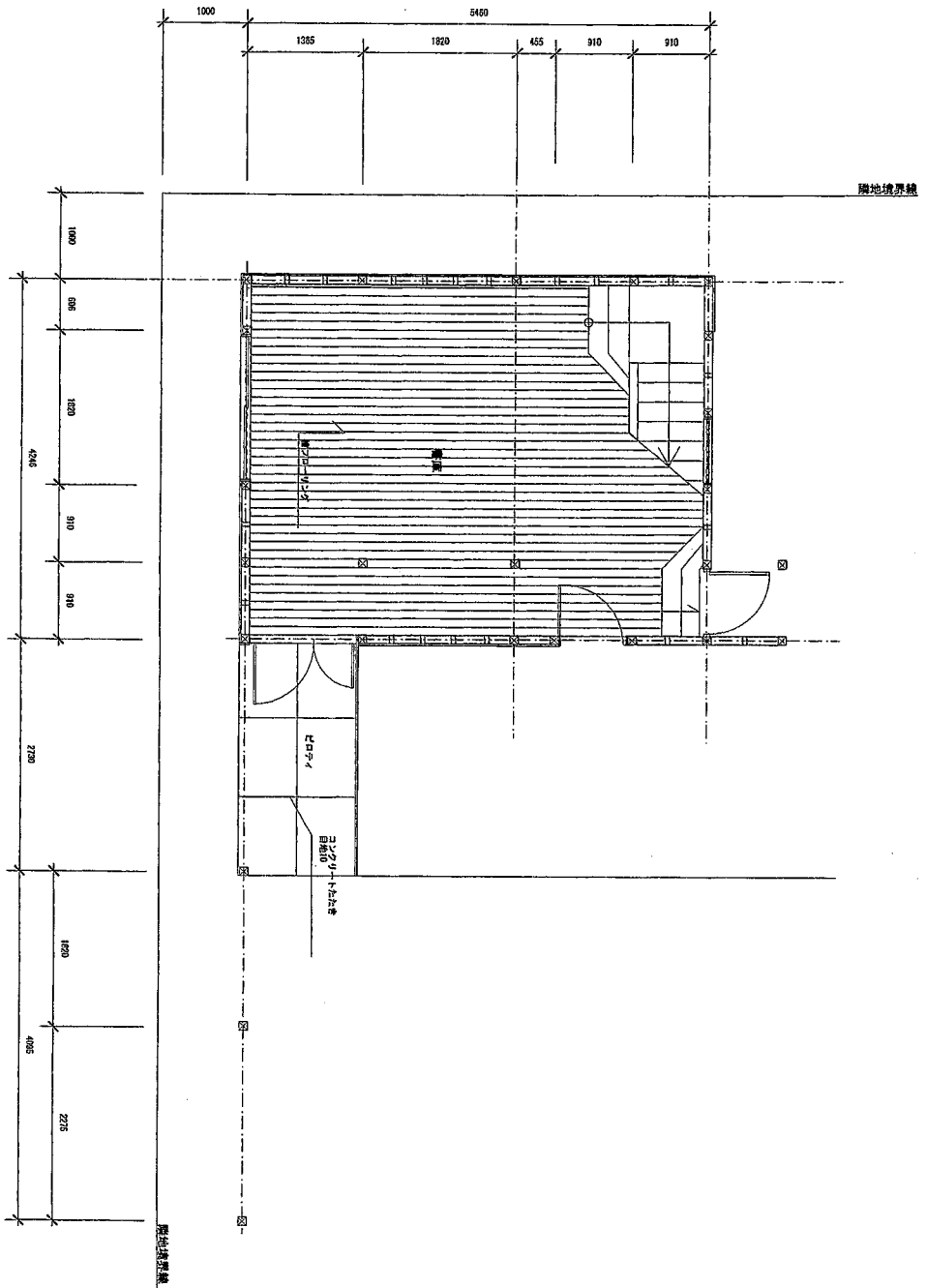




12

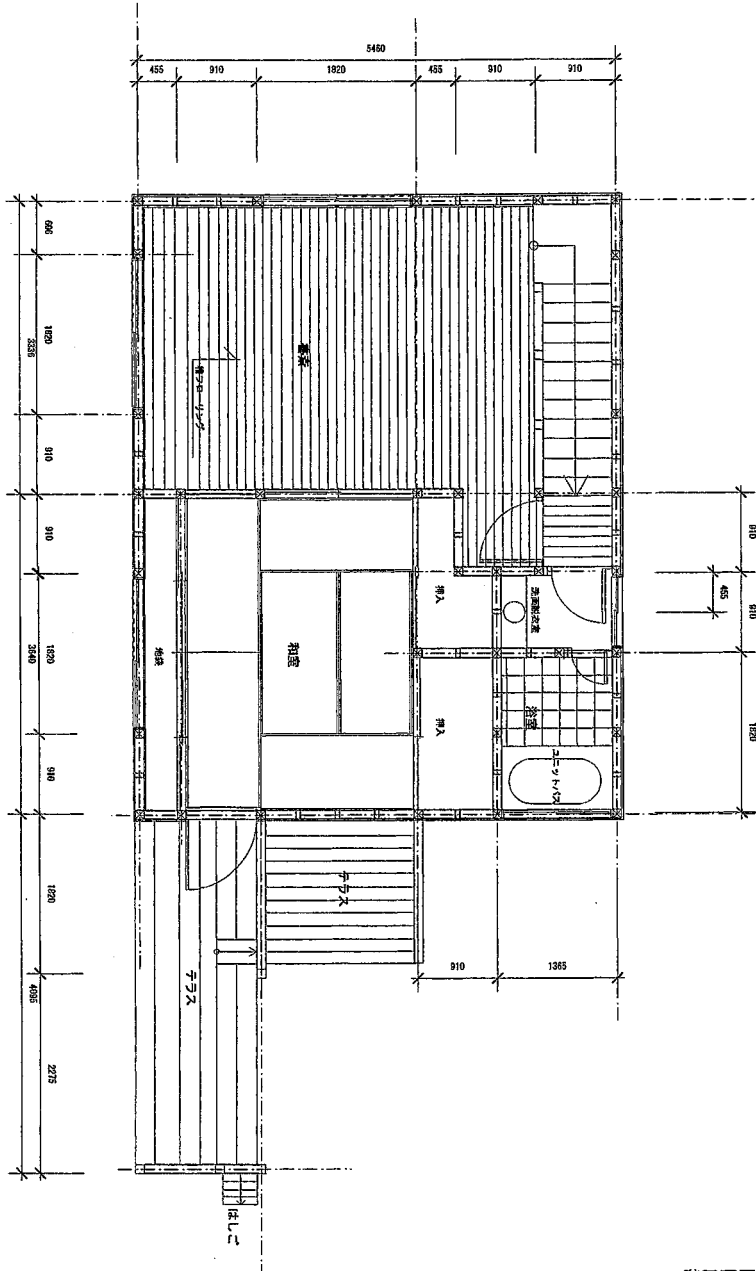


13

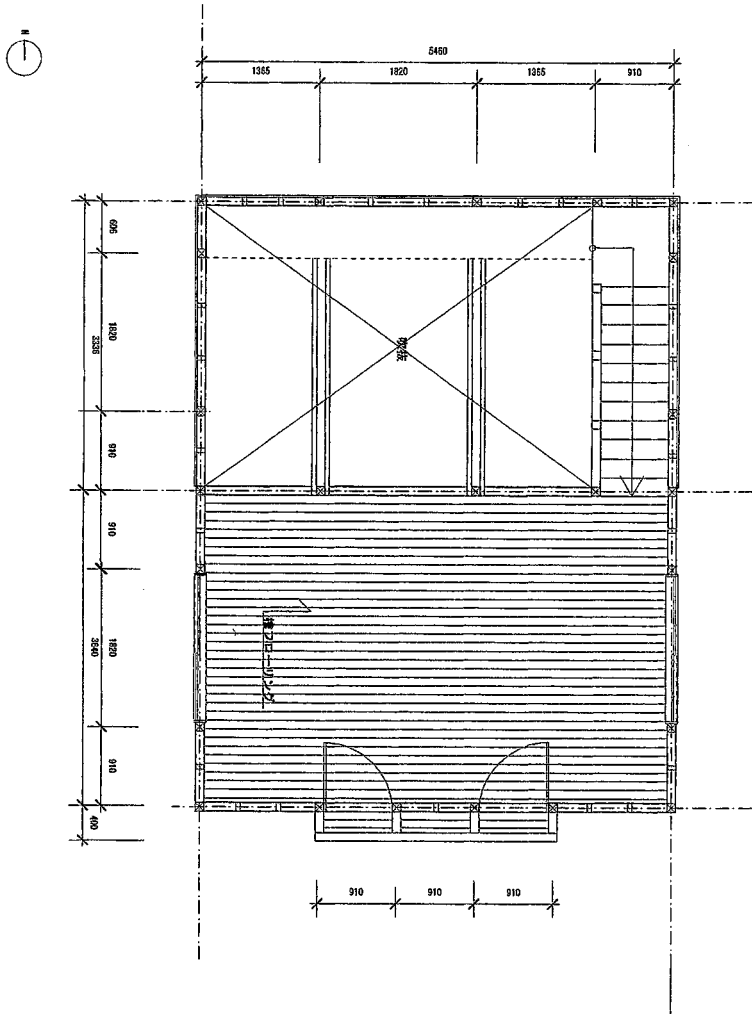


1階平面図



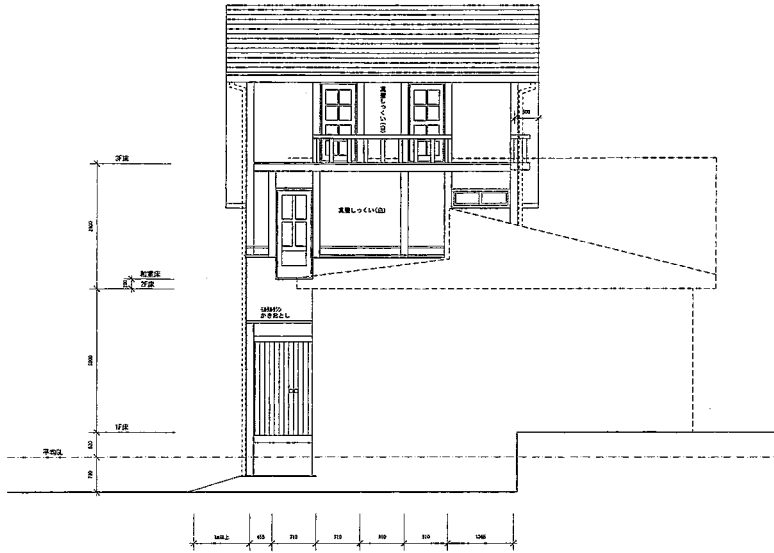


2階平面図

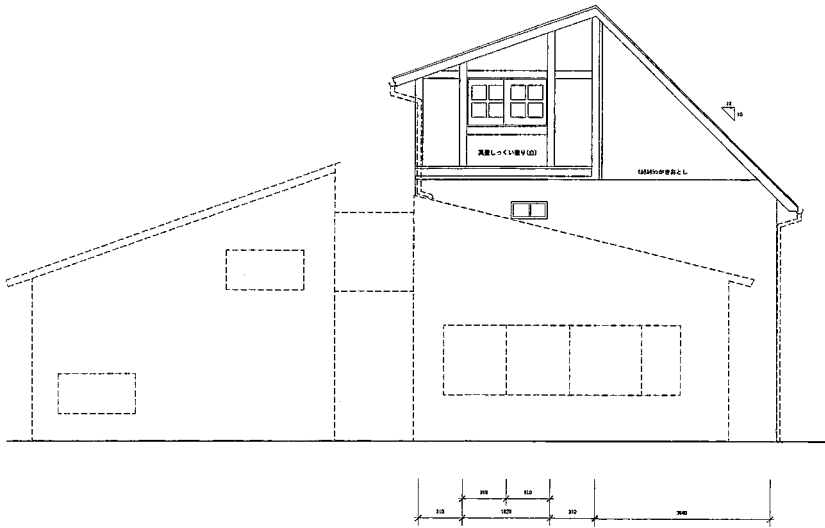


3階平面図

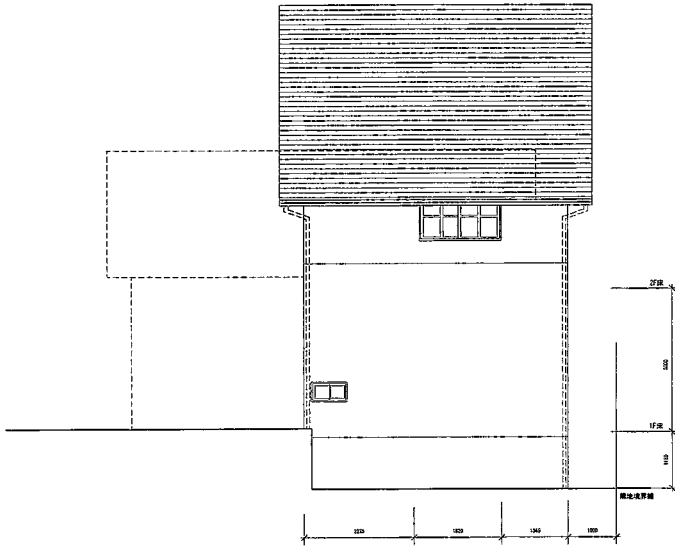




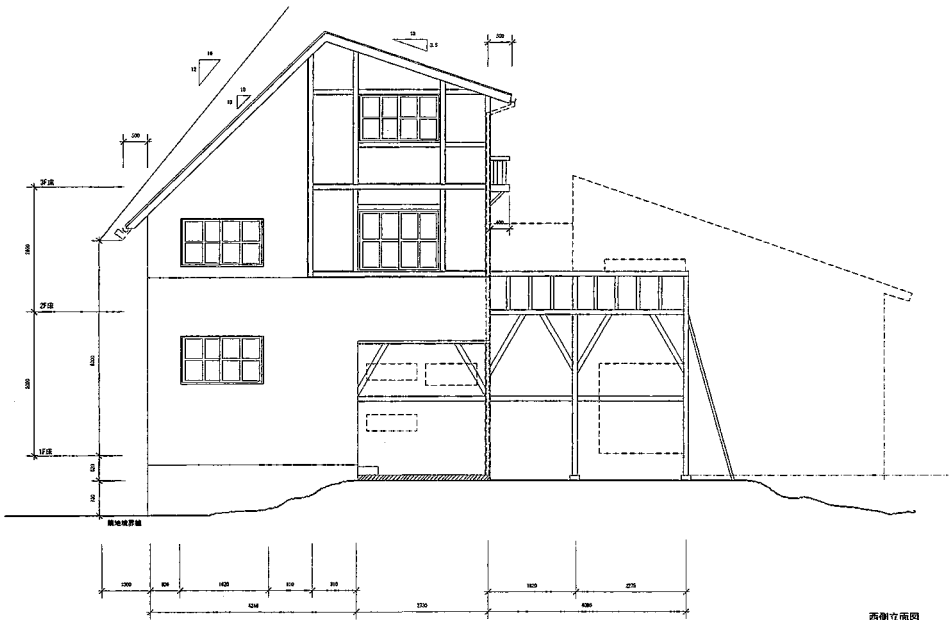
南側立面図



東側立面図

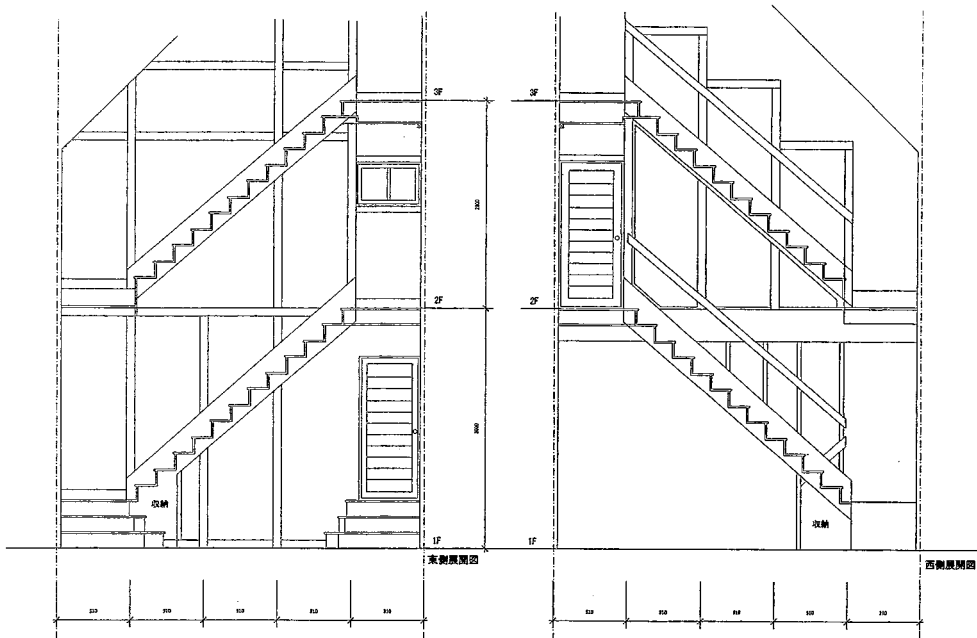
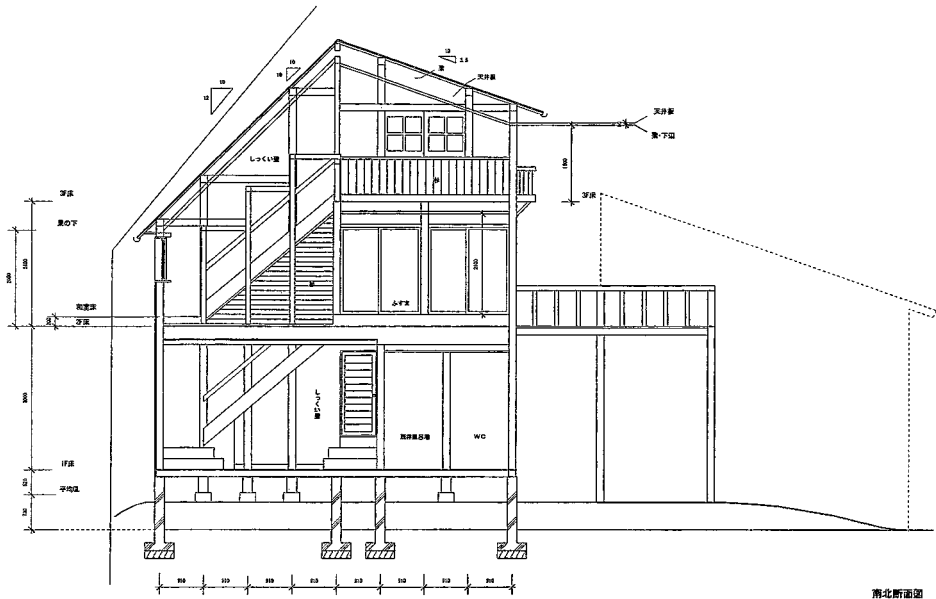


北側立面图



西侧立面图







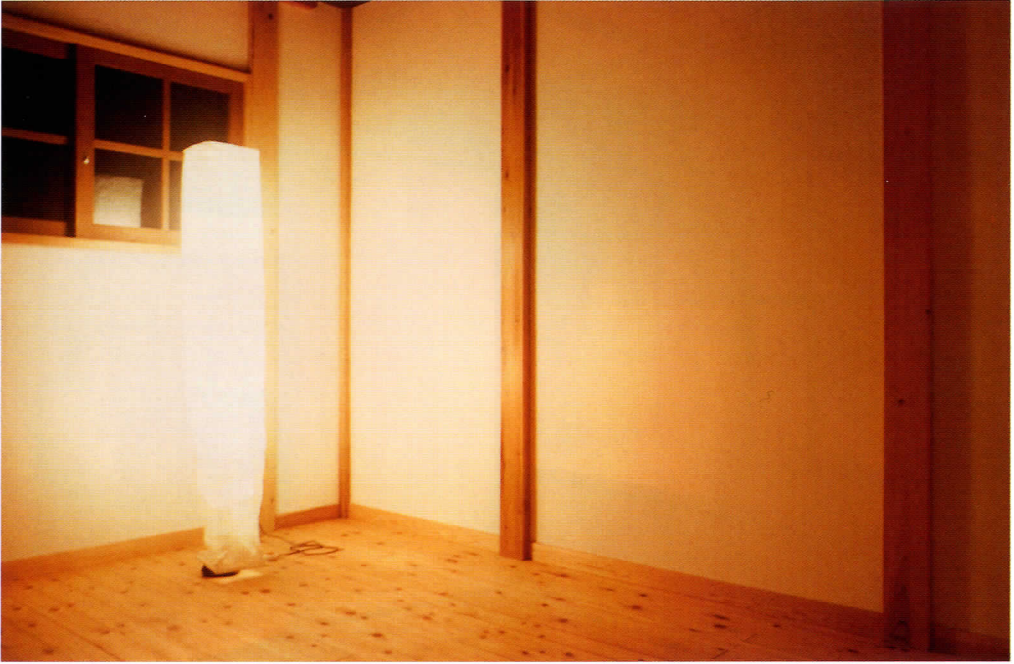




15



16



このNY邸の建築計画は既存の木造平屋建て住宅の増築である。設計の原案は施主のご子息の彫刻家による。ドイツ・フライブルグ在住のご子息にかわり、設計・原案すべての修正・現場監理等を依頼された。

原案を尊重しながら、私なりの考えで全体・細部等を決定させていただいた。照明の計画・色彩の計画・材料の選択等を配慮した。

\*



NY氏はT大学のドイツ文学の教授を長年勤められ、ルドルフ・シュタイナー等の研究家としても知られる。1階は書庫、2階は吹き抜けのある氏の書斎。また、外国人の訪問も多いため寝室を兼ねる和室。3階は多目的室である。

\*

杉・檜・漆喰・和紙等による、在来工法・真壁造の3階建て住宅であるが、コスト的にかなりおさえられている。湘南の海に近いこの住宅建築は、広い敷地の中で多くの樹木に囲まれている。この家の主役は木々と土と人である。大工の木村さんは丁寧な仕事をしてくださった。

\*

ドイツ人などの外国人も泊まるであろう2階の「和室」は、小さなおもてなしの迎賓館として「日本的」でなければならないのであろう。日本的とは何。この部屋は、「伝統的・日本的」かどうかわからない。畳と襖・障子があると日本的？天井に和紙を貼り、モダンデザインの黒いダウンライトがふたつ。地袋に金色の紙が貼ってある。米国人であるため、広島平和公園の原爆慰霊碑のデザインを拒否されたイサム・ノグチによる、絹・竹・鋳物でできた電気の行灯がひとつ。骨董のあんどん・和蠟燭・お香・豆腐とめしでもあれば、日本・伝統になるのかもしれない。

\*

樹上・穴居住居・縄文・弥生・唐様・和様・西欧の古典主義、モダニズム・第1・2次大戦後の工業化量産住宅—ヴァイセンホーフジードルング、トゥロッケンバウ、コーポラティブハウジング・工業・化学製品住宅等・ポストモダニズム・環境・自然・地球。

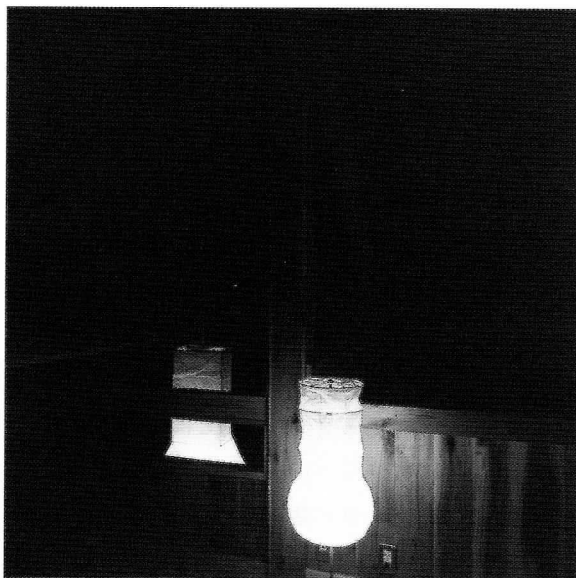
思想・技術等の輸入と折衷・並列・改良が日本文化の特徴であろうか。和魂洋才（福沢諭吉）と様式の和洋折衷、わが国の伝統。夏目金之助・司馬遼太郎等々の日本国への危惧は？

\*

この住宅は一般的な木造在来工法であるが、ふつうの「和風」住宅はいつまで「普通」でいられるか。これから、庶民向けの普通の大工技術はどのくらい継承されるだろう。20年ごとに技術継承がなされる伊勢神宮（神の住居）は日本・地球が終わるまで残る？

\*

どのような家に住みたいかという願望は、この世でどう生きたいか（死にたいか）ということの答えのひとつであるのかもしれない。3畳一間の下宿で銭湯に通うより、バス・トイレ・冷暖房付のワンルームは「豊か」である。茶のための利休の待庵のたたみは2畳であるが。豊かな生活はもしかすると、出家後の住所不定のお釈迦さま・イエスさま・樽のディオゲネスの生活なのかもしれない。



18

- 1：南側外観 2：2階書斎吹き抜け 3：2階書斎より階段 4：3階より2階吹き抜け  
5：2階書斎・和室 6：2階書斎・階段 7：2階書斎・和室 8：3階より2階書斎  
9：3階多目的室東側 10：3階多目的室北側 11：3階多目的室西側  
12：3階多目的室南側 13：2階書斎北側 14：和室南側 15：和室・書斎 16：和室西側  
17：1階書庫南西側 18：3階多目的室

(写真：本村佳久 製図：川西由真)